

## 総会・懇親会及び薬学部等新校舎見学会開催のお知らせ

事務局 市川 文久(S45年卒)

会員の皆さんにあっては忙しい毎日を過ごされている事と思いますが、第4回野田建築会総会・懇親会の開催のご案内を致します。

今回は昨年神楽坂から野田に移転してきました薬学部校舎と講義棟の施設見学会も同時に開催する企画と致しました。

薬学部の移転により学内の景観や学生達の様相も大きく変わりました。移り変わる学園景観と昔のままの懐かしい施設等を、日頃のあわただしさから離れて、直接自分の目で見て、体で感じ充実した時間を過ごす良い機会と思います。

第3回総会で菊地新会長に引き継がれてから2年が過ぎましたが、この2年間に2ヶ月おきに役員会を開催し、多くの活動を行ってきました。

総会では各部会から活動報告と今後の活動方針の提案を行いますので、会員の皆さんと審議し、より良い同窓会としていくために多くの会員の方々の出席をお願い申し上げます。

### 記

開催日時 平成16年5月15日(土)

開催場所 東京理科大学工学部

新施設見学会 開催時間:午後3時~4時15分(集合時間は午後2時50分とします)  
集合場所:講義棟 1階ロビー

総 会 開催時間:午後4時30分~5時30分  
開催場所:講義棟 K403教室

懇 親 会 開催時間:午後6時~8時  
開催場所:第3食堂  
会 費:3,000円

以上

\*総会・懇親会・見学会の出欠・委任の連絡は同封の用紙に記入しファックス送付下さい。

野田建築会ファックス送付先 FAX 04-7125-7533

(建築学科事務室のFAXを利用して戴いてます)

\*集合場所の詳細は当日、理工学部正門玄関等でお知らせいたします。

## 築理会との役員交流会を開催

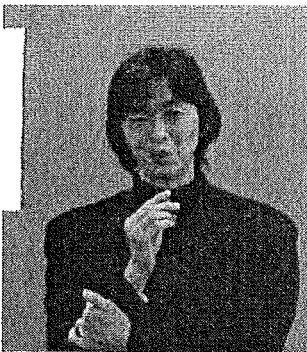
会長 菊地 利武(S46年卒)

昨年の10月2日に理窓会館において工学部建築学科の同窓会組織である築理会との役員交流会を開催しました。築理会からは森本会長、三松副会長、畑中副会長、大岩事務局長、田中名簿委員長が、野田建築会からは菊地会長、佐藤副会長、市川事務局長、五十嵐事業部会長、山田名簿委員が出席しました。合冊名簿第二号の発刊、同窓会活動の活性化、財政基盤の安定(有償会員の安定確保)、名簿データの精度向上、会員相互の交流・イベントの共催など、双方の同窓会が抱えている課題や懸案事項について、フランクに意見交換を行うとともに懇親を深めることができました。現在、築理会とは合冊名簿の発刊や相互の総会後に開催される懇親会への相互参加そして今回の役員交流会などを行っておりますが、今後は会員レベルでの交流の場を作り、その輪を広げていければと考えております。是非、皆様のご協力と積極的な参画をお願いいたします。

## 2003年 OBと語る会

事業部会長 五十嵐 洋也(S53年卒)

例年の通り、活躍されているOBの方を招いて学生たちと語り合う「OBと語る会」を2003年11月27日(木)に、新築された野田校舎の講義棟K403教室で開催しました。今年は、若井達夫さん(S50年卒)と遠藤政樹さん(H1年修卒)に講義をしていただき、最後に短い時間でしたが学生との交流の場を設けました。毎回、建築学科を卒業し、建築関係のそれぞれの業界で活躍をされている方を4~5人招いていますが、今回はお二人に時間を取ってお話していただくことにより、とりわけデザイナーとエンジニアのコラボレーションという感を深めた会となりました。学生も70人ほど参加し、多くの質問をいただき、お二人も先達として学生たちに答えておられました。その後、懇談会を催しました。この懇談会には学生も参加し、さらにOBと親交を深めていました。



遠藤 政樹 (S62年卒 奥田研究室) EDH遠藤設計室

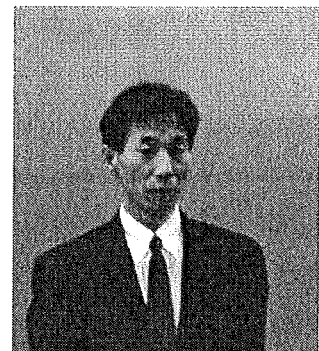
2003年の日本建築家協会(JIA)新人賞を受賞した遠藤さんは、スライドでこれまでの作品を紹介していただきながらアーキテクトの仕事とその成り立ちをダイジェストではありますが、分かり易く説明していただきました。独立される前は難波和彦+界工作舎にいて、難波氏の仕事振りが大変影響があったことも紹介していただきました。

若井 達夫 (S50年卒 野村研究室) 株式会社スパンクリートコーポレーション

若井さんは技術部長としてスパンクリートを製造する会社に勤務されています。

まず、スパンクリートはどのようなものかを説明していただきました。会社のホームページでは「スパンクリートは縦方向に数個の中空孔をもち、PC鋼線によってプレストレスを与えられたコンクリート板」とあります。身近には駅の床によく使われているとのことでした。

製造過程等もスライドで説明していただき、建築物はさまざまな技術によって支えられていることをあらためて感じることができました。



## 「南カリフォルニア大学より」

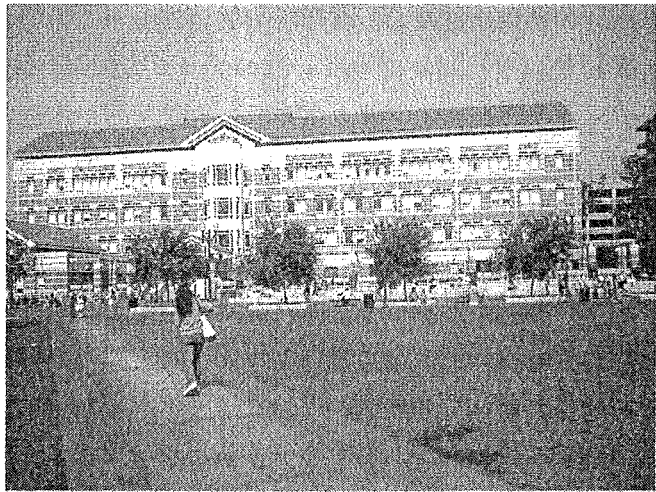
衣笠 秀行  
(S60 年卒)

現在、私は在外研究員として昨年(2003年)9月より1年間の予定で南カリフォルニア大学(USC)に在籍中です。USCはロサンゼルス・ダウンタウンのすぐ南に位置しており、周りにはアカデミー賞の授賞式が行われるホテルやオリンピックが行われたスタジアムなどがあり、休日ともなると大変多くの家族連れが訪れます。キャンパスは大変美しく、映画撮影でよく利用されるとのことでした。

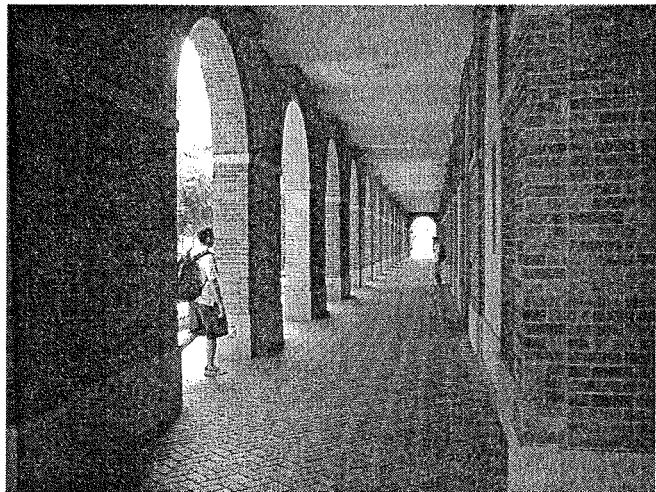
私の在籍しているYan Xiao先生の研究室は、現在3名の博士課程の学生がおり大変活発に研究活動を行っています。こちらに来て、日本の大学とずいぶん違うと思ったことは、学部の卒業論文、大学院の修士論文にあたるものがなく、従って、日本で行われる学部4年生からの研究室への配属がないということです。これは、学士や修士より、博士課程の学生の育成に力点が置かれているためであり、大学は非常に多くの博士課程の学生をかかえています。おそらく、このことが高い研究水準とエネルギーを維持する一要因になっているように思われます。

USCはスポーツにも非常に力を入れており、とくにアメリカンフットボールでは大変有名です。今年は25年ぶりにローズボールへの出場権を獲得し、キャンパスは異常な盛り上がりを見せています。学生はもちろんのこと、教授たちも大変熱狂的で、アメリカンフットボールを通して、教授と学生の交流がはかれ、また、大学に対する愛校心が培われているように見えます。

USCには、アメリカはもちろんのこと、アジア、中東、ヨーロッパなど様々な国から多くの人々が集まってきており、日々、異なる思想や文化に、驚きととまどいの連続です。こちらに来て、あっという間に6ヶ月が経ってしまいました。残された期間を充実したものになりたいと考えています。



図書館



講義棟

## 建築学会技術部門設計競技、本学科OBと本学科講師が最優秀賞、優秀賞を受賞！

2003年度日本建築学会技術部門設計競技、アイデアコンペ「火災に強い高層木造建築システム」において、本学科昭和54年卒業池田憲一氏(現在清水建設勤務)と本学科63年卒業の大宮喜文氏(現在本学科講師)をそれぞれ代表とする応募案が、最優秀賞、優秀賞と上位2賞を受賞した。

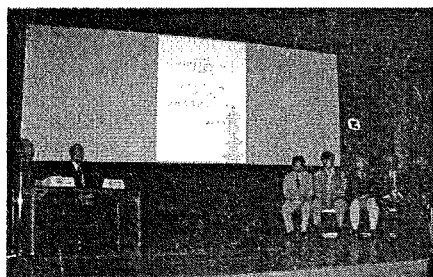
今回の設計競技は、現行法令の枠組みにとらわれず可燃材料に基づく構造で火災安全性を性能的に確保できる設計の提案が求められた。具体的には10階建て程度の高層木造建築を想定し、火災時に構造システムの特徴を維持し、在館者の避難安全を確保できる建築計画が可能なが前提とされていた。

両案はそれぞれ別々にそれぞれのチームで練られ提出されたものである。池田憲一氏を代表とする「ハットトラスとハイブリッドカラムを併用した木造架構システム」は、極厚の木質壁の上に地震時にも有効な木質ハットトラスを構えた構造で、各階の柱の中央に鋼棒を忍ばせ、火災時にはこの鋼棒によって各階の荷重を上部のハットトラスに伝えて建物の崩壊を防ぐ仕組みが主たる提案内容であった。

大宮喜文氏を代表とする「性能火災安全設計法に基づく高層木質ハイブリッド建築物の提案」は、高強度コンクリートと木材のハイブリッド構造で、木材には耐火被覆の役割を担わずと同時に、長期荷重を分担しない耐震部材は可燃性の木質部材を耐力部材として用い、地震と火災が同時には発生しないため、建物は倒壊には至らないというアイデアであった。

両氏は本学科の火災工学を専攻する川越研究室、若松研究室のOBであり、大宮喜文氏は現在本学科の講師、池田憲一氏は昨年から本学COE客員助教授となっている。今回の受賞は、本学の火災科学部門が昨年度受賞したCOEが実力通りの評価であったことの証明でもあるといえる。

両氏はこれからも本学科、本学のため、また、我が国の火災安全工学発展のために寄与して行きたいとのことである。



池田氏と大宮氏が並んだ表彰式

表彰式で秋山宏日本建築学会会長から最優秀賞を受け取る池田憲一氏

作品は東京理科大学野田建築会のホームページ上に掲載してあります！



## 通信欄

### NAA賞発表！ 菅原愛夏さん（渡辺研究室修士2年生）

本人は、学部在学中より、台湾の都市計画・まちづくりに関心を持ち、大学院においては、今年度文科省で新設された「最先端分野学生交流推進制度」に応募し、理科大として唯一かつ第1号の留学生として採用されました。2ヶ月間国立台湾大学へ留学し、その成果は修士論文においても発揮されました。

彼女の留学にともない、カウンターパートとして陳海立氏を理科大へ受入れ、また客員教授として陳亮全先生（COE（文部科学省研究拠点形成費補助金制度）関係で講演会を開催など）を招聘するなど、台湾との国際交流の端緒をひらくこととなりました。



発行 東京理科大学野田建築会 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~sut-naa/index.html>

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会